（８）熊本県泗水町中央公民館における
エル・ネット「オープンカレッジ」事業報告

泗水町エル・ネットモデル事業実施委員会
（熊本県泗水町教育委員会生涯学習課）

１．趣　旨

当町は、熊本県の北部に位置し、人口約14,000人の農業を中心に発展してきた町であるが、近年サラリーマン世帯が増加し、住民の要望も多様化してきている状態である。このような社会構造の変化に伴う住民の学習需要に対応するため、町では中央公民館を中心とした生涯学習講座を実施している。しかしながら、この講座のみでは限界があり、より多様なニーズに応えるため、平成14年３月にエル・ネットの受信設備を整えた。エル・ネットから放送される各大学のさまざまな公開講座を当公民館で実施することの意義は大きく、この「オープンカレッジ」が住民に広く受け入れられることで生涯学習社会への貢献が出来ると考えた。しかしながら思うように受講者が集まらず、思案しているとき今回のモデル事業の話があり、小規模な施設での取り組みであるが今後の方策を探るため本事業を実施した。そして、さまざまな価値観をもった住民が「オープンカレッジ」を気軽に受講できるような体制作り、また、町中央公民館として、エル・ネットを活用して住民の学習支援をどのようにしていくか、以下の４項目について調査研究を行った。

① 放映日時に合わせた公開講座の実施に伴う運営体制調査。
② テレビ会議システムを利用した双方向質疑の効果。
③ ビデオ貸し出しの利用効果。
④ 「子ども放送局」の運営体制調査。

２．内容等

概要等

① どのような方向で実施するか検討した結果、さまざまな講座が送られてくることで、会場の問題、人員問題を考えた上で、放送公開講座を約週２回のペースで再放送分14講座41講義、新規講座21講座44講義を実施し、受講者が関心のある講座、興味のある講座を自由に選択して受講する体制をとった。曜日・時間帯については、基本的に平日の「オープンカレッジ」の放送時間帯に合わせて実施し、12・１月中には土曜及び夜間にビデオ録画放映講座を設けて募集を行った。

② 平成14年12月14日（土）は、淑徳短期大学の公開講座『21世紀生涯学習への招待』を一般受講者と当町の社会教育関係者（教育委員、社会教育委員、公民館運営委員）へ周知し、テレビ会議システムを利用して双方向での質疑応答を実施した。その後、

講座受講者との意見交換会また、アンケート実施調査を行った。

③　放送した講座と放送できなかった公開講座をビデオに録画して各種団体また個人へ貸し出しを行いその利用効果を探った。

④　毎月第二・四土曜日の生放送番組のみを選択して実施した。また、放送内容に応じ詳しい方がいれば講師として呼んでアドバイスをしていただき運営体制方法を探った。また、参加した子どもたちからアンケート調査も実施した。

広報等

広報については、２か月に１回、町内全戸に募集案内チラシを配布し、中央公民館、町立図書館にポスターを掲示し、町内各社会教育関係団体に個別に「オープンカレッジ」の活用に伴う周知文を講座一覧表と共に配布し広報にあたった。また、申し込み方法も最初は、直接申込書持参で募集を計ったが電話での問い合わせもあったので電話での申し込み受付も行った。

子ども放送局についても、２か月に１回、または、月に１回各町内小中学校へ募集案内チラシを全生徒・児童へ配布し、中央公民館、町立図書館へポスターを掲示し募集を行った。

広報についての受講者からの意見としては、

・字が小さくて見にくい。
・もう少し詳しい内容を載せたほうがわかりやすいと思う。
・オープンカレッジという名前が硬そうなイメージなのでやわらかい名前にしたほうがよい。
・チラシより広報誌に載せたほうがいいんじゃないか。
・チラシに「受講者の声」等を載せたらどうか。
・口コミが一番効果的。

などの意見が寄せられたので、今後の広報の仕方も工夫していかなければならない。

３．実施経過

平成14年10月に受講代表者等からなる実施委員会を設立し、「オープンカレッジ」の活用・運営方法などの検討を行い実施した。

①　２か月に１回は、町内全戸にチラシの配布、各団体への個別の周知をおこなったが、周知の仕方がいけなかったのか、年度途中での周知ですでに年間計画が立てられているので、各団体の学習会等での利用までは行かなかった。一般の受講者は、各講義平均3.8人と少人数ではあったが参加した受講者から「大変勉強になった」「こんなにいい講義を近くで受けられて素晴らしい」「テキストの事前配布は予習が出来て大変良かった。１回目の講義も早く欲しかった」「大学・先生によってわかりやすい講座、わかりにくい講座がある」など率直な意見が得られた。

②　淑徳短期大学公開講座『21世紀生涯学習への招待』でのテレビ会議システムによる双方向質疑応答は、初めての試みで「オープンカレッジ」のＰＲを兼ねて実施し受講者の

反応を探るため意見交換会、アンケート調査を実施して行った。

③　ビデオの貸し出しについては、11大学の講座、延べ14回の貸し出しがあり、「当日行けなくても後で、借りられるから良かった」「時間にとらわれずに見られるし、聞き逃したところを再視聴できるので良い」など意見・感想があった。

④　２ヶ月又は１ヶ月に１回町内全児童に募集チラシを配布して周知をおこなったが、思っていた以上の参加はなかった（多いとき14人平均３～４人）。第２土曜日の夢スタジオは視聴しながら質問ファックスを番組へ送ったり、また、内容に応じて講師の先生を呼んで放送の合間に小さな教室を開いて実施した。第４土曜日は、ものづくり等で一緒に番組に合わせて実施した。

淑徳短期大学公開講座受講風景
『21世紀生涯学習への招待』

２月８日子ども放送局受講風景
『ろう者の女優　忍足　亜希子』

４．成果と今後の課題

事業の成果としては、公民館事業として学問的な講座が少なかったので「オープンカレッジ」は、様々な特徴のある講座を視聴でき、関心のある講座を、受けたい時に身近なところで受講できるということで幅広い年齢層に新たな学習の場を提供できたことと思う。しかし、学習意欲はあるが、時間や場所に制約され視聴したい講座への参加が難しいといった意見もあり、今後の進めかたによって「オープンカレッジ」のよりよい活用方法が見えてくると思う。

また、テレビ会議システムによる双方向の質疑応答は、初めての試みだったが「地方にいながら中央の講師と直接質問のやり取りが出来て良い」「臨場感がありいつもと違った講義だった」「カメラには映りたくない」などさまざまな感想や意見があり受講者に高い満足度が伺えたが、いつもこうした講座を実施できるわけではないので、今後の住民に身近にどう広げていくかは、これから十分検討していく課題であり、受講者アンケートからもわかる様に「オープンカレッジ」のイメージは決して否定的ではなく、また人それぞれ様々な価値観の違いが見られるので、１人でも学びたいという人がいれば、このいろんな特徴のある公開講座を場所・人員的な問題が発生するが、可能な限り自ら学びたいという地域住民に提供できる体制を整えていく努力が必要だと感じた。そして、各種団体（社会教育関係団体等）・趣味サークル（グループ）の学習の場として利用が「オープンカレッジ」のＰＲにもつながるし効果的な活用にもつながると思うので出来るだけ早目の講座スケジュールの編成が不可欠であると思う。

また、今後いろんな面で、多くの人が利用しやすいような運営体制・活用方法を検討し

ていく必要がある。

受講者からの意見・感想として、

（肯定的な意見・感想）

・好きな講座を選択出来て好きな時だけ学べるので良い。

・テレビ会議システムによる双方向質疑応答は臨場感があり、遠くへ行かずに講義が受けられていい。

・身近なところ（近くの公民館）で学べるので良い。

・試験のないし、縛られない講座で楽しく学べる。

・自分には程遠いものだと思っていたのに本当に分かりやすい講座だった。

・今後もいろいろな講座を開いて欲しい。

・ビデオ貸出しは時間にとらわれずに見れていいし、聞き逃したところを再視聴できるから良い。

・参加できて大変良かったです。これからも出来るだけ参加したいです。

・講座を視聴して始めて知ったことがいっぱいあり、そんな日は来て良かったと自己満足した。

（否定的な意見）

・１回目のテキストを早めに配って欲しかった。

・視聴したい講座と自分が空いている時間帯が合わない。

・一般的に講義内容のレベルが高すぎるのではないか。

・統計だけで話をして欲しくない。

（その他）

・図書館情報大学の講座を多く設けて欲しい。

・「文学」と「言葉」の世界のような講座がもう少し欲しかった。

・コンピューターに関するもっと専門的で詳しい講座を望みます。出来れば物理的実験や実物も見せて欲しい。

・お金を徴収してやってもいい。

・大学教授中心の番組が多いので、他の分野を入れて見ればどうか。

など、いろんな意見・感想そしてアンケート調査結果等を踏まえ今後のよりよい活用方法を検討していかなければならない。

また、子ども放送局についても、ただ視聴するだけでは子どもたちも退屈するし、なにか他の事業と組み合わせることで一段と身のある内容になると思う。そして、テレビ電話による双方向番組を実施し子どもたちへＰＲしよりよい運営になるよう検討していかなければならない。

実施した新規公開講座一覧（網掛けはテレビ会議システムによる双方向質疑）

大　学　名	講　座　名	講義回数	受講者数
仙台大学	スポーツと健康	3	3
山梨県立女子短期大学	ジェンダーフリーの子育て・保育を考える	1	1
淑徳大学	「源氏物語」への誘い	3	6
八戸大学	「文学」と「ことば」の世界	2	4
東京音楽大学	鑑賞のための音楽と楽譜の歴史	3	2
茨城大学	オリンピックの人間学	3	0
東洋大学	日本政治の常識と非常識	1	5
中京女子大学	体ほぐしの運動	1	5
お茶の水女子大学	天才の栄光と挫折	1	4
常磐大学	ボランティアとミュージアム	3	1
鳥取環境大学	コンピューターと通信	3	5
東京外国語大学	人・ことば・文化	2	4
淑徳短期大学	21世紀生涯学習への招待	1	21
聖学院大学	日本の国際化と日本語教育	3	4
佛教大学	美に遊び、美に学ぶ	2	3
法政大学	協調的交渉術	1	6
徳島大学（夜間）	ホノルルマラソンをインターネット中継しよう	3	0
お茶の水女子大学	中高年の社会参加	1	1
信州大学	ところかわれば生活かわる	3	3
松山大学	まちづくり学	1	0
女子美術大学	絵画・デザイン制作の理論と実際	3	2
計　21講座		44講義	80人

ビデオ貸し出し一覧

大　学　名	講　座　名	講義回数	貸出回数
東京都立保健科学大学	肩こり・腰痛予防の運動	2	2
神戸大学	生命・生活・環境を脅かすもの	3	1
創価大学	21世紀「心」の教育	3	1
八戸大学	「文学」と「ことば」の世界	2	1
淑徳大学	「源氏物語」への誘い	3	2
お茶の水女子大学	天才の栄光と挫折	1	1
東京外国語大学	人・ことば・文化	2	1
鳥取環境大学（施設内）	コンピューターと通信	3	1
佛教大学	美に遊び、美に学ぶ	2	1
法政大学	協調的交渉術	1	2
女子美術大学	絵画・デザイン制作の理論と実際	3	1
計　11講座		25講義	14回

アンケート集計結果（淑徳短期大学公開講座）

（１）あなたの年代、性別、職業をお知らせ下さい。

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
男性	0	3	3	1	4	3	0	14
女性	0	0	0	4	2	1	0	7
計	0	3	3	5	6	4	0	21

職業　会社員　３名　　自営業　　１名　パートアルバイト　３名　　無職　５名
　　農林業　１名　　専業主婦　３名　その他（無回答）　５名

（２）「オープンカレッジ」をどのようにしてお知りになりましたか。

○講座各戸配布チラシから　　18名　　○町ホームページから　　０名
○インターネットから　　０名　　○その他（知人から）　　３名

（３）なぜ、オープンカレッジを受講しようと思いましたか。

○テーマ（内容）に興味があったため　　10名
○新しいスタイル（衛星通信）の講座であったため　　５名
○他の人に薦められて　　５名
○その他　　０名

（４）講義の時間の長さについて

○長い　０名　　○ちょうど良い　21名　　○短い　０名
（途中で休憩があったから）

（５）講義の時間帯について

○午前中がよい　13名　　○午後がよい　４名　　○夜間がよい　３名
○土・日がよい　１名

（６）テキストは役に立った

○役に立った　　20名　　○役に立たなかった　　１名

（７）「放送番組」の進み方はあなたにとって速かったと思いますか、遅かったと思いますか？

○遅かった　　０名　　○どちらかというと遅かった　　１名
○速かった　　１名　　○どちらかというと速かった　　５名
○適当だった　　14名

（８）放送された内容で聞き逃したと思う箇所はありましたか？

○まったくなかった　４名　　○少しあった　15名　　○かなりあった　２名

（９）放送された内容で再視聴したい箇所はありましたか？

○まったくない　　１名　　○少しある　　20名　　○かなりある　　０名

(10) 放送で使われた各種演出（字幕やパネル、取材映像）は、講義内容に合っていましたか？

○まったく合っていない　０名　　○どちらかというと合っていない　０名
○よく合っていた　　13名　　○どちらかというと合っている　　７名
○どちらでもない　　１名

(11) 放送中に登場した講師や主演者の話し方について、どのように感じましたか？

（話し方）○聞き取り難かった　０名　○どちらかというと聞き取り難かった　２名
○聞き取れた　13名　○よく聞き取れた　６名

（内　容）○わかり難かった　１名　○どちらかというとわかり難かった　７名
○わかり易かった　13名

(12) 画面が単調だと感じましたか

○まったく感じなかった　11名　○少し感じた　９名　○単調だった　１名

(13) 日頃、教養・教育番組（テレビ）をどれくらい見てますか？

○まったく見ない　１名　○時々見る　14名
○よく見る　６名　○連続してみている番組がある　０名

(14)「視聴された番組」について、良かった点や改善点など気づいたことがありました以下の蘭にお書きください。

○良かった点

・自分の考えと異なる点。
・話し方がよくとてもわかりやすかった。
・その場で受けている感じがした。
・本日の講義は大変わかりやすく、今後の自分の生き方に参考になった。
・テキストに沿っての講義だったのでわかりやすかった。

○改善点

・内容が少し難しすぎた。
・レベルが少し高すぎるのではないか。
・専門用語がわかりにくかった。
・文字を大きく標示したほうがいい。

○その他

・始めての参加で何とも言えないが、悪くはなかったようだ。

(15) 講義が終了してから、講義の内容について質問したいと思いましたか。

○是非、質問したい　１名　○機会があればしたい　17名　○無回答　３名

(16) 本日の講座のような、衛星通信を利用した遠隔講座について、受講に際して受講料が必要だとしたら、受講したいと思いますか。

①受講したいと思う　16名　②受講したいと思わない　５名

（上記の質問で①と回答した場合）

受講料は、１回（100分程度の講義）あたり、いくらあたりが妥当と思われますか。

A　500円以下　10名　B　1,000円　６名　C　1,500円　０名
D　2,000円　０名　E　2,500円　０名　F　3,000円以上　０名

また、どのようなサービスを希望しますか。（複数回答）

A　著名人の講師による講義が提供される。　11名
B　講師との質疑応答の機会が確保される。　５名
C　より充実したテキストが提供される。　７名
D　修了証の発行や生涯学習単位の認定が行われる。　１名

E　資格を取得する際に利用できる。　１名
F　大学の正規の単位が取得できる。　０名
G　その他（こちらの要望による講座の放映）　１名

（(16) で②と回答した場合）
どのようなサービスが付加されれば、受講料を支払っても良いと思いますか。
A　著名人の講師による講義が提供される。　１名
B　講師との質疑応答の機会が確保される。　２名
C　より充実したテキストが提供される。　２名
D　修了証の発行や生涯学習単位の認定が行われる。　２名
E　資格を取得する際に利用できる。　４名
F　大学の正規の単位が取得できる。　０名
G　その他　０名
上記のようなサービスが付加された場合、受講料は1回（100分程度の講義）あたりいくらぐらいが妥当と思われますか。
A　500円以下　２名　B　1,000円　１名　C　1,500円　０名
D　2,000円　０名　E　2,500円　０名　F　3,000円以上　０名

(17) 講義の内容はどのようなものに興味がありますか。(複数回答)
○政治・経済関係　５名　○教育関係　２名　○歴史・文化関係　８名
○自然環境関係　８名　○国際関係　２名　○スポーツ・趣味関係　８名
○医療・福祉関係　７名　○その他

(18) 講義を受ける前と実際に受けた後の印象はどうでしたか。
○予想以上に面白かった　10名　○予想どうりだった　６名
○特に変わらない　４名
理由もよろしければお願いします
・硬い印象があった。カレッジと名が付くので当然だが。
・より深く学べる。
・社会生活における生涯学習と企業内における教育とは別ではない。

(19) 今後もエル・ネットを利用した講座を受講したいと思いますか。
○思う　15名　○どちらともいえない　６名　○思わない　０名

(20) オープンカレッジの他の大学公開講座を録画したビデオを借りて、自宅で好きな時間に視聴できるなら、したいと思いますか。
○是非してみたい　５名　○内容によってはしてみたい　15名
○別にしたくない　１名

(21) その他、オープンカレッジについて何でもよろしいですのでお気付きになられましたことをお書きください。
・始めての参加だったが、身近なところで学ぶことが出来て楽しかったです。
・前に「源氏物語」を受講しましたが、自分には程遠いものだと思っていたのに本当にわかりやすい講座でした。感謝しております。

・内容をもう少し詳しく掲載してあれば良いと思う。
・大学教授中心の番組が多いので他の分野を入れてみればいいと思う。
・今後も分野別に講座を開いて欲しい。また、コンピューターに関するもっと専門的で詳しいことを望みます。できれば、物理的実験や実物を見せて欲しい。
・今後も続けて欲しい。久しぶりにいい勉強になりました。

（９）「エル・ネット高度化推進事業」モデル事業の事例報告
～講座「日本文化の源流を探る」の実施を通じて～

宮崎・島根エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会
（宮崎大学生涯学習教育研究センター）

はじめに

ここでは、「エル・ネット高度化推進事業」の一環として行った公開講座「日本文化の源流を探る～日向と出雲の神話と芸能～」の実施を通じて得られた成果と今後の課題についてまとめることにする。

１．趣　旨

本事業では、宮崎大学と島根大学の連携を中心に、宮崎と島根に伝えられる神話や伝統芸能（主に神楽）の分析を通じて、公開講座「日本文化の源流を探る～日向と出雲の神話と芸能～」を制作した。本事業のねらいは、この講座の制作、放送を通じて、地域素材のプログラム化および講座編成の在り方と課題を明らかにするとともに、特定の受講会場と通信システムを結んで双方向による質疑応答を行い、学習成果への影響、今後の受講方法等の在り方について検討することである。

２．委嘱事業の内容

（１）講座プログラム

本事業では、別記のような全５回の講座を実施した。

「日本文化の源流を探る～日向と出雲の神話と芸能～」プログラム

	講　義　名	講　　師	放送日時	放送形態等
1	日向神話みられる日本文化	山田利博 （宮崎大学教授）	平成15年 １月18日（土） 13：00～14：40	録画放送、片方向
2	出雲神話にみられる日本文化	藤岡大拙 （島根県立女子短期大学学長）	１月25日（土） 13：00～14：40	録画放送、片方向
3	出雲の神楽・芸能にみられる日本文化	白石昭臣 （前島根県立国際短期大学教授）	２月１日（土） 13：00～14：40	録画放送、片方向
4	日向の神楽・芸能にみられる日本文化	山口保明 （宮崎県立看護大学教授）	２月15日（土） 13：00～14：40	ライブ放送、片方向
5	＜パネルディスカッション＞ 日本文化の源流を探る	全講師（上記）	２月15日（土） 15：00～16：40	ライブ放送、テレビ会議システムによる双方向

この講座の主な特徴として、次の点があげられる。

1）異なる二つの地区の大学が、それぞれの地域で共通する日本神話、神楽などをテーマにして連携した講座であること。

2）全５回とも宮崎市のＶＳＡＴ局から全国に放送したこと（第１回から第３回はすでに収録したものを録画放送、第４回、第５回はライブ放送)。

3）第５回の講義では宮崎の放送会場と島根の会場をテレビ会議システムで結び、それを活用して島根の講師がパネリストとして参加したこと。

4）第５回の講義では、放送会場と宮崎県内の３会場および島根県内の１会場をテレビ会議システムで結び、ライブで質疑応答を行ったこと。また、全国の受講会場からファックスによる質問も受付け、ライブでその回答を行ったこと。

5）神楽についての学習の理解を深められるように、事前に収録した島根県でみられる神楽の演舞を映像資料として取り入れた（第３回)。また、第４回の講義では、地元の神楽保存会の方による神楽の実演を行い、いっそう臨場感のある放送をライブで行ったこと。

6）講座の一部を放送大学の面接授業の一部と合同で実施した全国で初めての試みであったこと（第４回、第５回の講義)。

（２）調査研究

上記の講座の制作、実施を通じて、主に以下のような点について調査研究を行った。

1）共通テーマのもとで異なる二県の地域素材をプログラム化する視点、方法について

2）講座内容、音声（音質)、映像（画質）と受講者の満足度の関係について

3）県及び市町村教育委員会との協力方法について

4）オープンカレッジの有料制の在り方について

5）地上系通信メディアを用いた質疑応答の在り方について

6）遠隔地を結んでの双方向型のパネルディスカッションの在り方について

３．実施経過

（１）事業実施スケジュール

平成14年10月下旬　宮崎・島根両地区の協議会代表者及び講師による第１回検討会議

11月上旬　宮崎・島根各地区における第１回協議会

11月中旬　収録方法、質議の方法等についての具体的な検討

12月下旬　第１回ー３回までの講義を収録

平成15年１月中旬ー　講座放送（２月中旬まで)

２月下旬　宮崎・島根各地区における第２回協議会

２月下旬　宮崎・島根両地区の協議会代表者による第２回検討会議

（２）講座受講および受講会場の概況

宮崎地区と島根地区では異なる受講の方法をとった。宮崎地区では受講者は本講座のみを受講するという方法である。一方、島根地区では、エル・ネット「オープンカレッジ」の学習メニュー化が図られ、本講座がその１つに位置付けられた。受講者にはその中の１つの講座として本講座を選択して受講してもらうという方法をとった。

また、宮崎地区、島根地区の各受講会場と受講者の状況は以下の通りである。

宮崎地区：宮崎市教育情報研修センター（放送会場）／60名（第４回、第５回のみ放送大学受講者29名がこれに加わる）、宮崎県立図書館／13名、南郷町南郷ハートフルセンター／９名　えびの市えびの市民図書館／24名、日向市日知屋公民館／40名　合計146名（放送大学分を含めた合計175名）

島根地区：島根大学・松江市生涯学習センター・松江市城北公民館／45名、江津市教育委員会・和木公民館／15名　頓原町頓原公民館／26名、掛合町公民館／27名、石見町中央公民館／９名、西郷町中央公民館／７名（以上島根県）、会見町立公民館／８名、西伯町中央公民館／５名（以上鳥取県）　合計 142名

さらに、このうち島根大学・松江市生涯学習センター・松江市城北公民館での受講者については、試験的に受講料の課金を実施した。

４．成果と今後の課題

（１）事業の成果

＜講座プログラムについて＞

１）２つの地区が連携したプログラムの在り方について

５回の講座のうち、日本文化にみられる「神話」および「神楽・芸能」という２つの具体的なテーマについて、それぞれ宮崎、島根の各地区の講師による講義を設定し、最後の第５回目には全講師によるパネルディスカッションを行った。このプログラムにより、受講者は宮崎と島根にかかわる神話、神楽と芸能についての内容を詳しく学習ができたようである。また最後に行われたパネルディスカッションでは、各講師による講義のまとめとともにファックスやテレビ会議システムを使って寄せられた質問に回答する時間を長く設けたことが、内容の理解、まとめにも役立ったといえる。なお、両地区が連携したことについて、約85％の人が「よかった」あるいは「まあまあよかった」と感じている（宮崎地区調査）。

２）ライブ放送、神楽の実演について

ライブ放送と録画放送のちがいは、放送会場においても講師や受講者等が緊張感をもって一体となった形で講義、学習が進められること、またその緊張感や臨場感がそのまま遠隔地の受講会場に伝わること、ファックスやテレビ会議システム等での質問に即座に回答できるという点などがある。これらについて考えると、特に、第４回の講義では神楽の実演がライブで行われ、演舞の緊張感と迫力が教室全体を包み、また、そうした雰囲気がテレビ画面を通じても感じ取られたようである。

また、テレビ会議システムで質疑応答を行ったことは、遠隔地の受講会場においても参加型の学習が行えたという点で意義があった。ただ、ファックスによる質問については、すべてには答えることができなかったことは課題として残った。

＜講座運営について＞

３）県および市町村教育委員会等との連携について

各地区の県教育委員会、受講会場または受講会場管轄の市町村教育委員会およびVSAT局のある宮崎市教育情報研修センターの職員には、本事業実施委員会の各地区協議会の委員を務めていただき、組織的に受講者の募集、受講会場の提供、運営等で協力いただくことができた。こうした自治体等と大学との協力関係では、一方的な協力関係では継続が難しく、双方がともにメリットを享受できるような協力関係の在り方が求められると思われる。

４）放送大学との一部共同による実施について

本講座の第４回、第５回の講義の宮崎市教育情報研修センターでの受講は、放送大学宮崎学習センターが行っている面接授業の一部と共同で実施した。エル・ネット「オープンカレッジ」が放送大学との連携で実施されたのは全国的にこれまでには例がなく、初めての試みであった。このような形態による実施によって、受講者にとっては、いつもと異なった人々との学習で学習の輪が広がったのではないかと思われる。また、放送大学の受講者が神楽の実演を見て学習できたことは、それぞれ単独での実施では実現しなかったことである。

この試みは、放送大学とエル・ネット「オープンカレッジ」の連携の可能性を探る端緒となったのではないかと思われる。これが可能となったのは、放送大学や文部科学省等の関係者の方々のご理解が大きいが、プログラム編成に関わる要因をあげるとすれば、第一に両者の講義内容に共通点を見出せたこと、第二にここでの２回の講義がライブでの放送であったことである。今後、さらにこのような連携を考えるとすれば、実現を可能とさせる条件を明らかにしていくことが必要だと思われる。

５）オープンカレッジの有料制の在り方について

（受講料の課金についての調査の主な結果）

①有料制に対する意識

受講料の課金をしていない宮崎地区および島根地区の一部におけるオープンカレッジ有料制に関する調査結果によると、「払ってもよい」という人は宮崎では第１回終了時には70.0%、最終回終了時には81.0%、島根（島根地区の調査結果は中間集計による、以下同じ）では61.1%であった。

②受講料について

一般的な講座の１回当たりの受講料としては、「500ー999円」が各地区の調査で最も高くなっている（宮崎38.7%、島根では「500円」が48.5%）。

また、今回の講座１回ごとにどのくらいの受講料を払うことが可能かどうかについて毎回調査を行ったが（宮崎地区）、「500ー999円」が最も多く上記と同様の結果であった。さ

らにこれを講義内容のわかりやすさとのかかわりでみると、「わかりやすかった」という人では、いずれの回も「500ー999円」が最も比率が高いものの、「わかりやすかった」という人ほど支払い可能額が「1000ー1499円」とする人の比率が高い傾向がみられた。

③有料制になったときに期待すること

宮崎と島根の調査で調査項目に若干の違いはあるが、宮崎では「事前に内容をわかりやすく示す」(59.5%)、「テキストを事前に配布する」(34.5%)、「テキスト等の内容を充実させる」(31.0%) などが上位を占めている。島根では「より充実したテキストが提供される」(69.7%)、「著名人の講師による講義が提供される」(42.4%) などが高くなってる。

＜通信システムについて＞

６）ＩＳＤＮ回線によるテレビ会議システムの利用

宮崎市の放送会場と宮崎県内（３ケ所）と島根県内（１ケ所）の４つの受講会場をＩＳＤＮ回線によるテレビ会議システムで結び、これを用いて島根からもパネリスト２名が登場し、またそれぞれの会場の受講者から質問を受付けた。テレビ会議システムを活用した双方向の講義形態については、約55%の人が「とてもよかった」あるいは「まあまあよかった」と考えている（宮崎地区調査)。しかし、各受講会場からのテレビ会議システムを通じた音声が、衛星通信を経由して放送されたときに聞き取り難い場面があり、受講者からも音質レベルの向上についての希望があった。

７）遠隔地を結んでのパネルディスカッションの在り方について

放送会場と他の会場を結ぶ通信システムが地上系の通信（ＩＳＤＮ回線等）であれば、通常の容量では画質レベルには限界があり、それ通じた長時間の視聴は学習内容の理解や継続の妨げにもなる。できるだけ学習意欲をそぐことなくパネルディスカッションが行えるような条件や必要事項について、今回の実践を通してわかってきた。例えば、遠隔地からの講師には話題の流れによって常に登場できるようにすること、テレビ会議システムによる質議応答の際には放送会場と遠隔地の受講者の質問を交互に行うこと、放送中でも相手先と連絡がとれる回線を確保しておくことなどの留意点があるように思われる。こうしたことが明らかになれば、たやすく遠隔型のパネルディスカッション、シンポジウム、講演会の実施運営に役立つのではないだろうか。

（２）今後の課題

１）地上系メディアの可能性について

今回は地上系メディアとしてＩＳＤＮ回線を利用したテレビ会議システムのみの活用であった。現在はブロードバンドによるインターネット会議システムなども双方向通信メディアとしての可能性がある。今後、どのような地上系メディアが有効かについて幅広く検討していきたい。

２）テキストの配布方法、文字等について

テキストの完成が講座の直前ということもあり、講座当日の受付で毎回配布する形をとったが、受講者からは予習をしたうえで受講したいということから、事前に配布することへの希望が多く見られた。郵送になると経費のことがあるが、印刷が早めに終わっていれば、講座出席時に次回のテキストを配布することも可能である。テキスト配布については、Web による配布もすでに行われている。今後、どのようにしてテキストを事前に配布するかを考える必要がある。

また、受講者は60歳以上の比較的高齢の方が多いため、経費のこともあるが、テキストの文字の大きさについても配慮していきたい。

３）講座のＰＲについて

宮崎、島根の各地区において、また、各受講会場において講座案内のチラシを作成して講座受講者の募集にあたった。また、地元新聞、および全国紙の地方版にも講座の案内が掲載されたこともあり、予想を越える申込みがあった。宮崎市では、予定していた会場で定員に達したため、急遽、別の会場でも受講できるようにした。

今回の受講者には地元で観光ボランティアをしている方々がグループで申込み、受講されている様子がみられた。受講者の募集では、講義のテーマを考慮しながら関係する機関やグループに呼びかけることも１つの方法ではないかと思われる。このほかにも、効果的なPRの方法を明らかにしていくことが課題である。

４）オープンカレッジの有料制について

今回の調査研究では意識調査を主としてオープンカレッジの有料制について検討したが、今後は試験的に有料の講座を実施しながらこの点について検討していきたい。

（10）沖縄県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業報告

沖縄県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会
（琉球大学生涯学習教育研究センター）

１．趣　旨

琉球大学は、高大連携事業として、高校生に大学における高度な教育・研究に触れる機会を提供するため、授業科目の一部を公開するとともに、高校生を対象とした公開講座を開設することを検討しており、平成15年度からの実施に向けて琉球大学と沖縄県教育委員会間で協議が進められている。

そこで、平成14年度には、高大連携事業のプレ事業として、琉球大学と沖縄県教育委員会との連携により、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用して、県内高校生に大学レベルの教育に触れる機会を提供し、電話による双方向の質疑応答を取り入れた講座を企画・実施した。

２．内容等

（１）実施機関

沖縄県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会を設置し、事務局を琉球大学生涯学習教育研究センターに置いた。実施委員会は、琉球大学側から講師２名、担当者３名、教育委員会側からエル・ネット及び高大連携関係者４名、収録会場の県立総合教育センター関係者２名の計11名で構成した。

（２）内　容

沖縄県のエル・ネット機材を使用して、実際の講義を収録したビデオをＶＳＡＴ局から放送し、ビデオ終了後にサテライト会場と電話を使ってライブで質疑応答を行うものとした。また、講義内容は、県内高校生に興味をもってもらうため、琉球の歴史関係とし、映像を多く取り入れ、難度も高校生向けに工夫した。

３．実施経過

平成14年８月～11月		制作及び収録の打合せ
		テキスト・教材の制作・取材等／実施委員会開催
	11月19・21日	大学独自収録
	12月	編集
平成15年	１月７・14日	放送（電話による質疑応答）

２月～３月　　事後処理・事業評価／実施委員会開催

（１）大学独自収録

①　平成14年11月19日（火）13時50分～15時40分

「琉球と中国・アジアとの交流史（琉球王国と首里城／琉球とアジアの交流）」（講師：高良倉吉琉球大学教授）の収録

②　平成14年11月21日（木）13時50分～15時40分

「琉球・中国の文化交流史とその遺産（琉球の詩人と中国／漢詩に詠まれた琉球）」（講師：上里賢一琉球大学教授）の収録

〔収録の概要〕

エル・ネットの機材設備のある県立総合教育センターの研修室に県立北中城高等学校の生徒を集めて教室形式で講義を進め、その模様を録画した。講義はテレビモニターを使用して、事前に撮影した風景や編集した資料を示しながら進めた。

収録時は、外の騒音を拾わないように窓を閉め切ったうえ、冷房を作動させることができなかったこと、更に講師には背広を着用してもらったため、収録環境が劣悪となってしまった。

収録作業は、琉球大学及び県の職員とも、エル・ネットの機材操作に慣れていないため、(株)沖縄映像センターのスタッフに応援をお願いした。

放送用ビデオへの編集は、パソコン処理によって、講義の模様にテレビモニターで使用した映像を取り込む編集を行った。この作業は、パソコン処理に詳しい琉球大学の教官が大学院生の協力を得て行ったが、初めてのこともあり、かなりの労力と時間を費やすことになった。

（２）放送

①　平成15年１月７日（火）10時00分～11時50分

「琉球と中国・アジアとの交流史（琉球王国と首里城／琉球とアジアの交流）」（講師：高良倉吉琉球大学教授）の放送及び電話による質疑応答

②　平成15年１月14日（火）10時00分～11時50分

「琉球・中国の文化交流史とその遺産（琉球の詩人と中国／漢詩に詠まれた琉球）」（講師：上里賢一琉球大学教授）の放送及び電話による質疑応答

〔放送の概要〕

ＶＳＡＴ局（沖縄県教育委員会会議室（沖縄県庁庁舎内））をメイン会場としてスタジオをセットし、サテライトの５会場と電話回線を接続した。スタジオには講師に待機してもらい、サテライト会場で高校生に視聴してもらった。まず収録したビデオをＶＳＡＴ局から放送し、ビデオ終了後、講師の映像をライブで送り、電話による質疑応答を実施した。サテライト会場では、講師の生の姿を見ながら質問をし、講師は、電話での質問に応えるという方式である。

４．成果と今後の課題

（１）沖縄県は島嶼県であり、衛星通信システムを利用した遠隔教育の需要が他県と比較してより多いと思われるが、琉球大学には、県内全域に発信する有効な媒体がなく、また、県はエル・ネットを有しているにもかかわらず、その活用が十分ではないという状況にある。今回のモデル事業では、高大連携事業に特化したものではあるが、大学の公開講座を遠隔地の受講者に提供するのには有効な媒体であることが改めて認識され、県にとっても、エル・ネット利用のきっかけができたものであった。

公開講座の独自収録や特にライブでの電話による質疑応答など、機器操作に専門性が要求されるものであり、琉球大学及び沖縄県とも初めての試みであった上に、職員が機器操作をする頻度が少ないため、民間事業者の協力がなければ実現が難しかった。また、編集作業も専門スタッフではない教官等の個人の力量に依存した形で進めたものであり、今後、収録、編集、放送にかかわる専門スタッフの養成が必要である。

（２）受信局を持つ高校を中心にサテライト会場として５会場を選定し、結果として７高校の生徒が延べ409人受講した。

高校生へのアンケート結果をみると、番組としての技術的な面での指摘（講師の音声の明瞭度、電話での質疑応答時の音声がループしたこと等）を除けば、概ね評価は良かった。

質疑応答に関しては、生放送ということもあって、実際に質問が出るかどうか心配な面もあったので、テキストを事前に配布し、予習を心がけてもらった。この点に関しては、講義内容が沖縄の歴史という高校生にも身近な題材であったこともあり、終了時間が気になるくらい質問が出され、心配が危惧に終わった。

講義に引き続いた質疑応答の部分を生放送したのであるが、講義が高校生を前にしたものであり、講師も通常の講義のように話しかけながら行っていたので、放送全体をあたかも生で進めているように感じた高校生がいた。

（３）今回のモデル事業は、高大連携事業として、事情の許す限り、県内の高校には授業の一環として一斉に視聴してもらうことを期待し、教育委員会が各高校に対して積極的に広報し、より多くの高校生が視聴できるように働きかけたが、放送時間が固定されていること、また、途中10分間の休憩を入れたものの正味100分の講義であったことなど、高校の授業時間とオープンカレッジの放送時間との調整が難しく、高校側の協力が十分とはいえない面があり、この点について課題が残った。

（４）沖縄県内でいわば初の公式的な高大連携事業ということで、一部地元紙が取り上げ、エル・ネット「オープンカレッジ」の存在が県内に広く知れわたったこと、また、大学独自収録、ＶＳＡＴ局からの発信、電話での双方向の質疑応答と初めて取

り組んだ事業としては、一応の成果をあげることができたと思われる。この経験を今後に生かしていきたい。

５．受講者講者へのアンケートー集計結果－（回答数409名）〔（　）内の数値は%〕

１　「放送番組」の進み方はあなたにとって速かったと思いますか、遅かったと思いますか。

１	遅かった	（　4.8 ）
２	どちらかというと遅かった	（ 14.8 ）
３	適当だった	（ 60.0 ）
４	どちからというと速かった	（ 17.8 ）
５	速かった	（　2.6 ）

２　放送された内容で聞き逃したと思う箇所はありましたか。

１	まったくなかった	（　9.5 ）
２	少しあった	（ 66.4 ）
３	かなりあった	（ 24.1 ）

３　放送された内容で再視聴したい箇所はありますか。

１	かなりある	（　0.4 ）
２	少しある	（ 37.8 ）
３	まったくない	（ 61.8 ）

４　放送で使われた各種演出（字幕やパネル、取材映像）は、講義内容に合っていましたか。

１	よく合っていた	（ 11.3 ）
２	どちらかというと合っている	（ 42.3 ）
３	どちらでもない	（ 40.5 ）
４	どちらかというと合っていない	（　4.6 ）
５	まったく合っていない	（　1.3 ）

５　放送中に登場した講師や出演者の話し方について、どのように感じましたか。

（話し方）

１	よく聞き取れた	（ 10.0 ）
２	聞き取れた	（ 42.7 ）
３	どちらかというと聞き取り難かった	（ 35.2 ）
４	聞き取り難かった	（ 12.1 ）

（内容）

1　わかり易かった　（ 21.2 ）
2　どちらかというとわかり難かった　（ 59.6 ）
3　わかり難かった　（ 27.2 ）

6　画面が単調だと感じましたか。

1　まったく感じなかった　（ 13.2 ）
2　少し感じた　（ 59.6 ）
3　単調だった　（ 27.2 ）

7　日ごろ、教養・教育番組（テレビ）をどれくらいみていますか。印象でお答えください。

1　連続してみている番組がある　（ 3.3 ）
2　よく見る　（ 9.2 ）
3　時々見る　（ 49.6 ）
4　まったく見ない　（ 37.9 ）

8　「視聴された放送番組」について、良かった点や改善点など気づいたことがありましたら、以下の欄にお書きください。

8－1　良かった点

・ふだん学ぶ歴史を細かく聞けたこと
・歴史が深いところまで分かった
・いろいろ勉強になった
・高校生の私たちにとっても内容がわかりやすかった
・大学の授業の内容が分かってよかった
・生で大学の授業を聞けたところ
・説明の仕方がとても分かりやすかった
・番組の進め方がよかった
・聞き取りやすいテンポであった
・絵や図が分かりやすかった
・図などが大きく出ていたところがよかった
・相手の顔を見て話が聞けたのでよかった
・語りかけるように話してくれるのでおもしろく感じた
・電話で質問ができたのでよいと思う
・電話の質疑応答がよかった
・質問がよかったと思う
・テレビ電話がすごい
・興味がわいた

・おもしろかった
・今までこういう経験がなかったのでよかった
・大学進学への気持ちが強くなった

８－２　改善点

・時間が長かったので短くしてほしい
・進み方が単調だった
・分かりやすい言葉で教えてほしい
・もうちょっと画面を動かしてほしい
・画面が単調で飽きて眠りやすい
・みんなが眠くなってしまうので、もう少し楽しくやってほしい
・もっと興味深い画面にしたら学生も集中しやすいと思う
・板書してある字が見えにくかった
・話が聞き取りやすいようにしてほしい
・聞こえにくい。もう少し声に張りをつけてほしい
・質問の時の音がエコーになってて聞き取りにくかった
・画面と音声がかなりずれていて分かりにくい
・画面が見にくかったこと。声の遅れがあった
・画面が見えにくい時が少々あった

８－３　その他

・内容が難しい

４．受信者側に立った講座運営の在り方

青森県総合社会教育センター
社会教育主事　横内清信

１．はじめに

エル・ネット「オープンカレッジ」の実用化に向けて、発信者側の大学、受信者側の社会教育施設、実施機関の高等教育情報化推進協議会の三者が連携し、視聴者の視点にたった講義の構築が必要である。

そのため、発信者としての大学は、テーマの精選、わかりやすい講義、視覚に訴えた講座作り、双方向性の確保という観点から、質の高い講座の発信に努めている。

また、実施機関の高等教育情報化推進協議会は、新規講義の日程、内容、テキストの早期の提示については、年々改善を行い、ホームページ、メールマガジン、エル・ネット「オープンカレッジ」Ｎｅｗｓ等使って、情報提供を積極的に行っている。

しかし、質の高い講義が地域住民へ提供されるためには、発信者側と実施機関の取り組みだけではなく、社会施設等の受信者側の体制整備が重要な課題である。そこで青森県総合社会教育センターでは、平成11年度から淑徳短期大学と連携しながら、受信者側に立った講座運営の在り方を探っている。

２．今年度の主な取り組み

（１）既存講座等への活用

青森県教育委員会では、平成13年度、県内６教育事務所管内でエル・ネット「オープンカレッジ」を利用した講座を実施した。エル・ネット「オープンカレッジ」の講義を数コマ使って実施する講座は、生の講義と違い受講者の募集が難しいという担当者の反省があった。

今年度は新たに講座を組み立てるのではなく、市町村で開催する講座（例えば家庭教育学級や公民館主催講座）等を利用し、エル・ネット「オープンカレッジ」の視聴をその中に組み入れて実施した。結果として多くの受講生を確保することができた。

【例】　三八教育事務所主催「あおもり学講座」（階上町家庭教育学級に組み入れて実施）

11月26日	「スポーツと社会福祉」　仙台大学	視聴	48人
12月10日	「高齢者の生き生きスポーツライフ」　仙台大学	視聴	42人
１月14日	「高齢期の食事と栄養」	講義	51人

（２）エル・ネット「オープンカレッジ」ビデオライブラリーの整備

エル・ネット「オープンカレッジ」を利用した講座を組み立てる場合、講座担当者から事前に、講義内容を確認したいという要望が昨年度、出された。今年度、青森県総合社会

教育センターでは、放送を録画し、担当者から問い合わせがあった場合、テキストとともに貸し出している。このような動きが他の社会教育施設でも見られるようになった。

【例】

十和田市東公民館では、今年度、エル・ネット「オープンカレッジ」のライブラリー化を進めている。録画テープのリストを作成し、市広報を利用して、地域住民へ知らせ、視聴を進めている。また、ここを会場にエル・ネット「オープンカレッジ」の公開講座も実施している。

（３）生涯大学システムの活用

生涯大学システムである「あおもり県民カレッジ」では、インターネット、テレビ、地区情報紙等を使っての生涯学習情報の提供を行っている。これらを利用しながら、県内６教育事務所管内で実施する『エル・ネット「オープンカレッジ」あおもり学講座』のＰＲを行い、受講生募集を実施した。

エル・ネット「オープンカレッジ」の視聴者層は、あおもり県民カレッジ生と一致する現状を踏まえ、あおもり県民カレッジ単位認定講座として実施した。そのことにより、あおもり県民カレッジ学生の意欲を高めることにもつながった。

【例】　西北教育事務所主催「あおもり学講座」（仙台大学）

開催日	学習内容	受講者	時間	単位数
11/13	高齢者の心とスポーツのかかわり	43人	１時間	１単位
11/21	高齢者のための生き生きスポーツライフ	19人	１時間半	２単位
11/22	スポーツレクリエーションのすすめ	32人	１時間	１単位
12/3	一般成人・高齢者の生活とスポーツ	44人	１時間	１単位

３．学習者グループによる新たな動き

（１）学習者グループ「東青学友会」の発足

青森県では生涯学習の振興を図るため、平成９年10月に「あおもり県民カレッジ」という生涯大学システムをスタートさせた。

あおもり県民カレッジは、個人参加が原則であるため、学生間の横のつながりが弱く、学生同士が情報交換をしたり、仲間作りをするのがあまりないというのが現状であった。このような状況の中で、「あおもり県民カレッジ学生が学ぶ喜びを分かち合い、共に高めあう場としての組織」が必要ではないかという声が出て平成11年に「東青学友会」が誕生した。

（２）あおもり県民カレッジによる東青学友会への働きかけ

東青学友会が設立された時期に、あおもり県民カレッジでは、淑徳短期大学と連携しエル・ネット「オープンカレッジ」を利用した講座を試みていた。あおもり県民カレッジでは、学習者グループである「東青学友会」に積極的に受講を呼びかけた。

平成11年度から13年度の３年間の淑徳短期大学と連携したエル・ネット「オープンカレ

ッジ」には、単に受講するだけではなく、受付や会場作り等講座運営に協力する会としての体制も出来上がって行った。

（３）エル・ネット「オープンカレッジ」利用の試行的な実施

東青学友会は、エル・ネット「オープンカレッジ」を利用した講座を受講し、運営補助を行いながら、講座運営のノウハウを蓄えてきた。そのノウハウを活用してエル・ネット「オープンカレッジ」を利用した自主講座を運営しようとする動きが生まれ、試行的に平成14年２月16日（土）に京都教育大学「みんなで国際理解を考える～主としてケニアなどでの取り組みから」を視聴した。

あおもり県民カレッジでは、東青学友会へ番組の放送予定の情報、視聴する講義のテキストの準備、視聴会場の確保等の支援を行った。

これを機会に、東青学友会の平成14年度事業の中に、エル・ネット「オープンカレッジ」公開講座が組み込まれることとなった。

（４）エル・ネット「オープンカレッジ」自主講座の実施

東青学友会主催の平成14年度エル・ネット「オープンカレッジ」公開講座は、５月から９月まで、月１回のペースで実施された。講座には毎回10～15名ほど参加し、講座を視聴した後、お互いに感想や意見を述べ合う方法をとった。

受講生募集から講座運営まで東青学友会が行ったが、あおもり県民カレッジでも、テレビの生涯学習情報提供コーナーを使い、講座ＰＲに協力をした。

自主講座を実施することにより、東青学友会では自分たちで学びたい内容を自分たちで選び、一緒に学ぶ仲間を集め、お互いに感想を述べ合う場を持つことが可能となった。

【東青学友会主催　平成14年度エル・ネット「オープンカレッジ」公開講座】

No.	日　　時	テ　ー　マ	大　　学
1	5/28　10：00～11：30	世界遺産白神山地の魅力	弘前大学
2	6/25　10：00～11：30	歴史から見た親子関係と教育	筑波大学
3	7/20　14：00～15：30	21世紀へ向けての新しいライフスタイル	淑徳大学
4	8/29　10：00～11：50	北の文化－考古学と言語学から	札幌学院大学
5	9/19　10：00～11：20	総合的な学習の現状と課題	岐阜大学

４．おわりに

受信者側の立場からエル・ネット「オープンカレッジ」の利用方法を考えてきた。受信者側としては、「エル・ネット担当者の意識の向上」「エル・ネット「オープンカレッジ」の既存講座への活用」「生涯大学システムの活用」等を図っていくことが更に必要と思われる。

今後は、受信者側の社会教育施設の担当者が学習者グループを育成し、その学習者グループが、エル・ネット「オープンカレッジ」を利用して自主講座を実施するよう支援していくことが、エル・ネット「オープンカレッジ」の利用促進につながるものと思われる。